

令和6年度第3回静岡市障害者施策推進協議会 会議録

日 時 令和7年1月29日（水） 午前10時から

場 所 静岡市役所静岡庁舎本館3階 第一委員会室

出席者 渡邊英勝委員（会長）、浅野一恵委員、安藤千晶委員、
（委員） 井出容敬委員、河原崎佐敏委員、小菅翔太委員、苦竹幸枝委員、
深澤明子委員、伏見隆次委員、望月建志委員
（事務局） 保健福祉長寿局局长、保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長、
障害福祉企画課、精神保健福祉課

傍聴者 一般傍聴者 1人
報道機関 0社

議 題

- （1）静岡市障がい者共生のまちづくり計画（令和6～12年度）の進捗管理のための評価様式について
- （2）障がい者共生のまちづくり計画策定懇話会の設置について
- （3）その他

会議内容

開会

議題1 静岡市障がい者共生のまちづくり計画（令和6～12年度）の進捗管理のための評価様式について

● 障害福祉企画課から説明

【浅野一恵委員】

いろいろ考えて見やすくなっているのはよろしいかと思う。1点だけ、計画を実行し、達成していくためにいくらお金をかけているのか、それに見合った効果が出ているのかを把握するために、事業費の掲載は必要ではないかと考える。

【障害福祉企画課】

事務局として隠したい情報ということもなく、各事業の所管課で容易に出せる数字でもあることから、事業費を掲載する方向で改めて検討する。その際、実績の項目と同じく、評価年度と直近の数値のみを掲載することになるかと思う。

【浅野一恵委員】

今後、単年度毎の評価を行っていく中で、その結果は公表するのか。

【障害福祉企画課】

附属機関の資料や議事録は、市公式ホームページで公表することとなっている。計画の評価に関する資料も、非公開とすべき内容が含まれることではないことから、障害者施策推進協議会資料としての公表を行っており、今後もその予定である。

【浅野一恵委員】

市民に対して公表をするということであれば、事業費の項目はなおさら必要であると考ええる。

【渡邊英勝会長】

市の事業評価様式の一番右、令和12年度末時点での達成見込について、それだけ先のことを予測するのは難しいのではないかと考えるが、どうか。次年度の達成見込等、もう少し近い時点の予測としてもよいのではないか。

【障害福祉企画課】

現状値の伸びを考慮して計画終期における実績を推計する方法がひとつあり得ると考える。ただ、中にはそのような方法で測りきれないものもあるのは御指摘のとおりである。どの時点の達成見込を評価に盛り込むのか、今一度検討したい。

【浅野一恵委員】

令和12年度までをすべて見通すことはできない中で、事業の変更や新規事業の追加や廃止等があった場合には、どのように対応していくことを考えているか。

【障害福祉企画課】

実際の事例を取り上げると、令和3年度から令和5年度までを計画期間とする前計画において、「レスパイト事業」を途中でとりやめた。計画策定時点では必要としていた事業であることがわかるように、様式から完全に削除するのではなく、実施しなくなった理由を記載するような方法で対応していた。

新規事業については、影響の大きいものであれば、場合によっては計画の改定を行う可能性もありうる。そこまでいかなくとも、掲載事業ではなく計画関連事業として、参考として様式に追記していく可能性もあると考える。

【浅野一恵委員】

今の説明にあったように、中止した事業も、様式内に項目として残していただくことが大事だと考える。なぜそれが中止となったのかを記載していただくことによって、再開の必要の有無の検討ができ、過去の市の取組の記録にもなるため、残していただきたい。

【小菅翔太委員】

指標の一部について、障がいのある人とない人を分けて調査している理由についてお伺いしたい。

【障害福祉企画課】

当該項目については、概ね3年毎に実施しているアンケート調査の結果により把握を行う数値である。アンケートの対象者を抽出するにあたって、障がいの有無により標本数が異なること等から、評価においてもそれぞれを別に設定しているもの。

議題2 障がい者共生のまちづくり計画策定懇話会の設置について

● 障害福祉企画課から説明

【浅野一恵委員】

懇話会は市民の声を聴く場として非常に大事な会であり、特に市民アンケートについてここで話していただくのは良いことだと思う。

アンケート調査の結果を重視していただきたいというのは、これまでもお伝えしているところ。現計画ではアンケート調査の結果についてほとんど触れていないため、計画内でももう少し触れていただくか、他の方法でもよいので公表していただきたい。

アンケートをしていることの周知や回収率の向上等についても、懇話会の中で意見を聞いていただきたい。

【障害福祉企画課】

現計画へのアンケート結果の活用について、反映させていることはもちろんとして、その見せ方も検討してまいりたい。

懇話会での議論においても、調査項目に留まらず、意見を聴いてまいりたいと思う。

【安藤千晶委員】

懇話会は、計画の基となる部分を考える場としても機能させるべきではないか。社会情勢、例えば厚生労働省の方針、関係団体の考える現状と課題、障害者権利条約との整合性など、総合的に考える場としていくのがよいのではないか。

【障害福祉企画課】

より細かな具体的な部分ばかりでなく、市としての障がい福祉施策の方針そのものが、社会情勢に合致しているかという点を議論する場としてはどうかという御意見でよいか。

【安藤千晶委員】

全体を考えるのもそうだが、それぞれの団体が抱える課題等について話し合える場となっているのかを考えていただきたい。

【障害福祉企画課】

懇話会の中でどこまで議論の対象を広げることができるかといった課題はあるが、細部を詰めるためには大元をしっかり固める必要があると考えるため、回数や時間との兼ね合いの中で、広い視点での議題も検討させていただきたい。

【安藤千晶委員】

例えば、これまでの評価として「地域移行が進んでいるが」としている内容等についても、本来はどういう形での地域移行が望ましいのかといった視点なども含めて、各団体の状況と合わせて話ができる場となればよいと考えている。

【障害福祉企画課】

現場レベルの方まで御参画いただけるのが懇話会の良い点であり、事業所の実情や声も拾っていく場として活用することは大事であるとする。

【浅野一恵委員】

安藤委員からの意見のように、数値だけではわからない部分について、懇話会の意見を評価に組み入れていただきたい。地域移行の数、一般就労への移行率だけではわからない。国の施策が必ずしも正しいというわけではなく、評価の結果次第では、市から国に提言していく形としてもよいと考える。

また、懇話会には参考資料に掲載している以外の団体も参加できるものなのか。

【障害福祉企画課】

まずは参加団体についてお答えさせていただく。市から対象者を絞ってクローズな場とするつもりはないため、希望する団体や推薦される団体があれば随時検討していきたい。ただ1点だけ、予算措置等をしている会議体ではなく、皆様の御厚意で成り立っている場であることだけは御承知おきいただきたい。

もう1点、懇話会の意見を計画の評価に組み入れることについて、実態として、数値目標を設定している以上、評価は数値に頼らざるを得ない部分があると考え。そこは別の話として、目標設定が適切であるのかといった点については、見込み量の推計等の数値の議題と合わせて扱っていくことができるのではないかと感じた。

【浅野一恵委員】

数値に対する行政の捉え方と分析について、どこまで分かってくれているかが重要である。数値だけでなく、分析の部分についても触れていっていただきたい。

【障害福祉企画課】

それに限った話ではないが、例としてお話いただいた地域移行についてだけでも、この会議の中でも常々意見をいただいております、身に染みているところである。数値だけで満足することがないように、留意してまいりたい。

【渡邊英勝会長】

市民アンケートなどを通じて計画の評価を行い、新たな課題や気づきが得られ、それをまた計画に反映させていくといった形でつながっている。それに対して見込み量の算出方法はインクリメンタリズムのようなものが働き、課題等が反映されづらい状態になっているように感じるため、アンケート結果をベースに、現場で働いている方や当事者の意見を反映させていければよいのではないかと思った。

【伏見隆次委員】

地域移行をしたけれど入所施設に戻ってしまった人の割合などを見てみてはどうか。そういう方がどのくらいいるのかによって、原因の把握にもつながると思う。

もう1点、これは提案だが、参加団体に静岡県建築士会等を入れて、ハード面のニーズについて知っていただけたらと考える。

【障害福祉企画課】

1点目の内容について、入所施設に確認をし、データとして懇話会に提供することはできるのではないかと考える。必要なデータについては御意見としていただけるとありがたい。

もう1点の参加団体について、建築士会に参画いただくのはありだと思うが、特定の団体に対する要望の場のような扱いになることがないように留意する必要がある。

議題 3 その他

- 事務局からは説明等なし

【安藤千晶委員】

議題 1 の内容に戻るが、参考資料 1－1 の 3 ページ等、見方が難しい書きぶりになっているところがある。見栄えだけでなく、わかりやすいつくりにしていただきたい。

閉会